

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺		
所在地	愛知県名古屋市中区那古野2丁目12番5号		
自己評価作成日	平成21年8月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370400976&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成21年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街に立地していることを生かし、地域の人達とごく自然に交流を持ち、地域に溶け込むことが出来ている。地域の人達はこのグループホームのことを理解して下さっているし、利用者や職員のこととも知って下さっており見守って下さっている。このような恵まれた環境の中で、地域に根ざした、笑いの絶えないホームを皆と一緒に作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から6年が経ち、グループホームとしての体制は確立しているといえる。地域の中に溶け込んだ運営を目指し、日頃から地域に根差した活動を行うことで、地域でのホームの活動への理解は深いといえる。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。今年度、ホームは水害の被害を受け、非常災害の恐ろしさを身を持って体感することとなった。非常災害時の地域との協力関係が必要不可欠であるとの考えから、協力関係をより強いものとするべく呼び掛けを行い協力関係の確立に至った。また、ホームは放課後などに学校施設を活用して、子どもたちの異学年交流や体験活動、地域での世代間交流、生涯学習の振興などを図る、名古屋市の学校開放事業である「トワイライトスクール」を新たな取り組みに加え、更なる地域住民と共同の取り組みの充実に期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生楽しく自分らしく」という理念のもと、地域住民の一員として馴染みの関係が出来ている。また、ユニット会議などで周知をはかり、理念の共有と実践に努めている。	管理者以下職員は、事業所の掲げた理念をよく理解し利用者個々に何が必要かについて把握に努め日々の介護業務に反映できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に買い物や散歩に出掛け、ご近所の方と挨拶を交わしたりしている。地域の運動会、焼き芋大会、お祭りなどにも参加し、お祭りでは張りぼてコンクールにも参加している。また、婦人会の方々と公園清掃を行ったりもしている。	日頃から地域に根ざした活動を行い、地域住民との関係構築に力を入れている。毎年商店街で行われるお祭りに参加をし、張りぼてコンクール、団子屋の出店を行っており、地域住民へのホームの活動の理解の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が研修を受けたり、実践で培った知識を利用者への支援に生かすことは出来ているが、地域の方へ還元するまでには至っていない。現在、地域に向けて、新聞を発行したり、認知症についての勉強会を行うことを計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況の報告、意見収集の他に地域を良くする為に皆で何が出来るかを話し合っている。利用者も会議に参加して、地域の為に何が出来るのかを考えている。	定期的に行われている運営推進会議では、事業所の近況や活動内容について具体的な説明をしており理解を得よう努めている。また、様々な意見交換が行われており、事業所の日々の取り組みの中に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所に出向き、話をする機会を設けている。どんなに些細な事でも相談してアドバイスをもらうようにしている。	区役市担当者と密に情報交換を行い、良好な関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由かつ安全・安心な認知症ケアの確立を目指しており、玄関・居室の施錠を含めた身体拘束は一切していない。また、自由と安全を両立する為のリスクマネジメントも大切にしている。	管理者・職員は、利用者の抱えている問題やリスクを話し合い、身体拘束排除への取り組みの理解を深めている。また、利用者にとって何が一番よいのかを考えることで、意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し、高齢者虐待防止法に関して学ぶ機会を設けている。また管理者が職員の相談にのり、虐待に繋がるストレスをうまく発散出来るように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護事業を利用してみえる利用者がおり、事業者と接する機会も多い為、管理者や職員は学ぶ機会が多い。対応が必要な利用者に対しては支援出来る体制が整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに対する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者や家族の不安、疑問点に誠実に対応することで安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見を言い易いような雰囲気作りに努めている。意見や不満、苦情があった場合はユニット会議などですぐに検討し、早めに解決出来るようにしている。また、重要事項説明書に外部苦情申し立て機関も記載してある。	来所時に家族と話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。受け止めた希望は毎月の会議で利用者ごとに検討して対応しており、アンケートでの満足度も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話の中で出てくる意見や提案も出来る限り運営者まで届くようにしている。ユニット会議では職員が意見を言い易い場となるよう努力している。	管理者は、ユニット会議はもとより日常的にも職員が然に意見が言える事業所風土を作っている。出された意見や提案は積極的に運営に反映させている。その結果職員のモチベーションは高くサービスレベルの向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、人事考課制度の作り込みを行っており、努力や実績が給与に確実に反映されるようになる予定である。また、介護福祉士などの資格取得に対する推奨制度が出来、資格取得費用などがサポートされるようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、法人内外の様々な研修を受ける機会を設けている。参加者は研修報告を提出することが義務付けられており、参加しなかった職員にも内容が分かるようになっている。また、月に一度近隣のグループホームが集まってコンソーシアムという勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症グループホーム協議会への加入、西区グループホームコンソーシアムへの参加などを通じて、ネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活を把握するよう努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようとしている。いつでも話せるような雰囲気をかもし出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯をゆっくりと聞き、次の段階の相談に繋げている。出来る限り穏やかに対応して安心して頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては区の介護福祉課などを案内している。ご本人とご家族が今何を望んでいるのかを親身になってじっくりと聞く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者に教えていただく場面が多い。相談、悩み事、こんなことがあった等、お互いに話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの共有に努めようとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪時には、部屋でゆっくりして頂いたり、時には外食して頂いている。ご家族とデパートやお祭り、法要等へ行かれることもある。また、入居者と共にお便りを書き、季節ごとに送らせていただいたりしている。	職員は利用者一人ひとりと何気ない会話の中から思いや希望を引き出している。外出等希望に沿った支援を行っている。また、ホームでは実現が難しいことでも、家族との協力で利用者の様々な要望に応えることができる体制作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が黒子となってそれとなくフォローしたり、個別に話を聞いたり、相談に乗ったりすることにより、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に移られた方が遊びに来ることが多く、その際は昔と同じように親しくさせていただいている。培ったなじみの関係を壊さないようにしている。また、こちらから利用者と一緒にその方の所へ訪問することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志がはっきりと語れる方とは、十分に話しをし、思いを引き出すよう務めている。言葉に出せない方は、日々の行動、顔の表情から、思いをくみ取るように心掛けている。キーパーソンの方の思いも伺い、本人とキーパーソンの方の差を把握している。センター方式を利用して、スタッフと共に本人の思いを共有している。	日々の何気ない言葉から、利用者の希望・要望の把握に努め、実施に向け努めている。また、温かみのある日常支援を行い利用者の尊厳を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔していたこと、好きだったことを引き出し、それが今現在も興味のあることであれば、実現したいかどうか、本人に伺い、出来るようにするには・・・と本人と相談し実行している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが日々の暮らしの中で気付いたこと、感じたことなど、気軽に話しができる関係作りに努め、早めの情報収集に心掛けている。また家族から見た視点も情報としてとらえ、色々な角度から現状把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議において、本人の思い、家族の思いをスタッフに共有してもらい、次に思いの実現に向け、各スタッフがどんな寄り添いが出来るかの意見を収集し、介護計画を立てている。モニタリングについては、月2回のユニット会議で行っている。	定期的に行われるモニタリングにより介護方針が検討されており、利用者の状態が変化した時にはその都度介護計画が検討され、常に適切な支援が提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う場面、気づきに関しては、記録の特記事項に記載し、情報を共有している。その中で、計画の見直しが必要ではないかと思われた事項に関しては、ユニット会議で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームから地域に向け、発信をしていないのが現状である。地域に向け、何か提案が出来ないか検討中(たとえば、新聞)である。また、地域に向け何か出来ないかと、美容専門学校の先生との交流も進めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街に立地しているので、七夕祭りなどの行事の参加、作品製作にあっても、なごや職業開拓校の生徒さんと協力して作っている。町内の方と月に1回の公園掃除をしている。小学校の運動会等行事の参加、美容専門学校との生徒さんとの交流を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	少しの心配事でも、電話で質問ができるような、関係作り、商店街に住んでいる薬剤師さんからも主治医の方に連絡を気軽にちることが出来る関係になっている。何かあると医師からの指示を仰ぐことが出来、薬剤師さんも様子を見に来てくださる	定期的な健康管理を行っており、家族・医師・ホームとが連携を取り合い利用者に対し適切な医療支援が提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師は、週に1度ホームにに入り入居者さんの様子を見守っている。入居者さん、スタッフともに看護師となじみの関係が出来ており、ささいなことでも気軽に話し合う事ができている。また、ユニット会議にも出席いただき、看護師の視点から意見をいただいている。通院の支援もしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されることは、まれにしかない。病院にすぐに情報が伝えられるように、ICF様式に容態の変化、主治医からの話をおさめている。病院関係者とは、管理者がその都度パイプ役を務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者さんの容態の変化に応じて、その都度家族の気持ちを伺い、入居者さんの対応の確認をしている。入居者さんの容態の変化で家族の思いも変化していくことを考慮している。終末期介護が近づき、既往の体勢で対応が出来ない状況を想定し、24時間体制の訪問看護の検討をしている。	重度化や終末期については利用者・家族と早期より話し合いを継続し、意向の把握に努めている。また、家族・医師・職員の連携が確立を目指し、今後多様化するであろうニーズに対応できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていない。緊急時に対する「119番通報メモ」「緊急連絡網」があり、目のつく場所に設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。水害があった時、近所の方から「ここに、私ら住んでいるから、夜でも電話くれたら、お父さんがかけつけるからね」と声をかけていただいている。消防団は、消防署からの指示で動く為、直接の依頼は出来ないといわれたが、消防団の方も商店街の方々なので、顔見知りにはなっている。地域にグループホームがあることの意識づけは出来ている。	夜間想定等様々な訓練を行い、非常災害時には利用者を迅速に避難誘導できるよう訓練を実施している。また、運営推進会議を通じて、非常災害時の近隣の住民の協力を呼びかけを行い、災害時には地域住民の協力が得られるようにしている。	今年度発生した水害の経験を活かし、今後もより実践的な訓練等行うことで、職員間の意識の統一を行うと共に、災害時の地域との相互の協力関係をより確実なものにすることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保について新人研修の際にきちんと理解してもらえるよう徹底している。また、職員それぞれが気を付けて、もし利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応が見られたら、すぐに注意をするようにしている。	スタッフは一人ひとりの生活歴・性格・特性を理解し、自尊心やプライバシーを損ねることのないケアを心掛けている。訪問調査の視察時では、スタッフが利用者に対し落ち着いた姿勢で傾聴・受容し、優しく対応していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたことを押し付けるようなことはせず、利用者一人一人に合わせた説明をして、その人らしく、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側がその日の利用者のスケジュールを決めることは殆ど無く、買い物や散歩など、利用者一人一人の状態や思いに配慮しながら出来る限り柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装などは利用者本人の意向で自由に決めて頂いている。希望される入居者には女性職員が化粧をして差し上げたりもしている。理美容院では希望に合わせたカットをしてもらえるように連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は利用者と相談しながら決定している。利用者が広告をみて安い食材などをチェックして下さることも。調理や盛り付け、後片付けなども共に行っている。唯一の男性利用者も、食器洗いを自分の仕事として毎日毎食後行って下さっている。	調理、片付け、買い物、配膳など利用者と職員が一緒に自然な流れで楽しみながら行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲み、利用者が「食」を楽しむことができるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の栄養バランス、カロリー計算までは行っていないが、年に4回、提供している食事の写真を撮り、栄養士にカロリー計算を依頼している。毎回バランス良好との結果が出ている。水分は出来るだけ多く摂っていただくよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行っている。義歯は就寝前に必ず外し、ポリドントにつけるようにしている。全ての歯がご自分の歯である利用者が数人みえるので、維持していきたいよう支援していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人のサインを職員が把握し、さりげない誘導、支援を心がけている。	日々の生活より排泄パターンを把握し、職員は個々にさりげない声掛け誘導・介助支援を行っている。また、生活リズムや状態等に変化が見られた場合は、現状把握・対応に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や家事活動など体を動かす機会を設けて自然排便出来るように取り組んでいる。食物繊維を多く含む食材を摂っていただいたり、ヨーグルトを毎日食べていただいたり、水分補給をしていただくよう声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む利用者には言葉掛け、対応の工夫などをして支援しているが、無理強いはいはしないよう心がけている。曜日や時間帯は基本は決まっているが、入居者の希望に応じて臨機応変に、柔軟に対応している。	入浴の時間や回数等は入居者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴の可否については体調を勘案しその都度確認したうえで決定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。夜間、不眠の訴えがあったときには、暖かい飲み物などを差し上げ、落ち着くまで話を聞くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は把握しやすいように、健康管理ファイルに一括してファイルしてあり、いつでもチェック出来るようにしてある。処方箋に変更があった場合には申し送りを確実にを行い、全職員が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意分野を職員が把握し、一人一人の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中、玄関に鍵はかけておらず、散歩や買い物などに行きたいときにに行けるよう支援している。外食をしたい、デパートや大型スーパーマーケットに行きたいなどの希望があれば、出掛けるようにしている。リスクマネジメントを行った上で、お1人で出掛けられる入居者もいらっしゃる。	日常的に外出の機会を設け、利用者の希望要望に応じて、散歩や買い物等の外出が行われている。また、個別での対応や様々なニーズに応えるべく職員同士連携を取っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者には自由にお金を所持したり、使えるように支援している。出来ない利用者には、普段はホームで預かり、希望されるときにお渡し出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人には、希望があればいつでも電話出来るようにしている。また、手紙を書いた方と共に郵便局へ行き、ポストへ投函するなどの支援をしている。暑中見舞いや年賀状の季節には、職員の方から「書いてみませんか」などの働きかけも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くはないが、それがかえって家庭的な雰囲気を出しており、使いやすさ、居心地の良さに繋がっている。	利用者と職員の距離が近く、職員は利用者に常に寄り添う形で支援を行っている。また、利用者は穏やかに日中は共有空間で過ごし居心地の良さが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースが狭い為限界があるが、テーブルを二つに分けたり、ソファを置いたりしてそれぞれがくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものや馴染みのものを置くことで、居心地の良さに配慮している。神棚や仏壇、マッサージチェア、コンポなどを持ち込んでみえる方もいらっしゃる。	家具の持ち込み等は自由であり、使い慣れた家具や趣味の道具を配置する等居室一つ一つに個性が感じられた。利用者本人が生活しやすい環境となるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどは検討を重ねて、必要と思われる場所に配備出来ているが、段差などがあり、バリアフリーとはいえない状況である。スタッフが気を配り、声かけなどを行うことによりフォローしている。入居者も段差があることを把握してみえる。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	日頃から地域に根ざした活動を行い、地域住民との関係構築に力を入れている。毎年商店街で行われるお祭りに参加をし、張りぼてコンクール、団子屋の出店を行っており、地域住民へのホームの活動の理解の場となっている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	定期的に行われている運営推進会議では、事業所の近況や活動内容について具体的な説明をしており理解を得よう努めている。また、様々な意見交換が行われており、事業所の日々の取り組みの中に活かしている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	区役所担当者と密に情報交換を行い、良好な関係の構築に努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	来所時に家族と話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。受け止めた希望は毎月の会議で利用者ごとに検討して対応しており、アンケートでの満足度も高い。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	
総 合 評 価		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から6年が経ち、グループホームとしての体制は確立しているといえる。地域の中に溶け込んだ運営を目指し、日頃から地域に根差した活動を行うことで、地域でのホームの活動への理解は深いといえる。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。今年度、ホームは水害の被害を受け、非常災害の恐ろしさを身を持って体験することとなった。非常災害時の地域との協力関係が必要不可欠であるとの考えから、協力関係をより強いものとするべく呼び掛けを行い協力関係の確立に至った。今後も地域に根差した活動の継続をお願いし、取り組みの充実に期待するところである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確 認 事 項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。